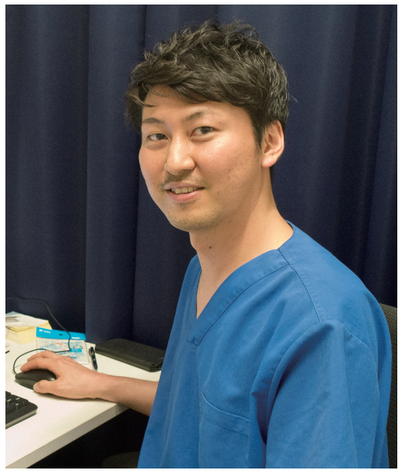
画像処理能力と操作性の高さが決め手に トプコンの眼科用電子カルテシステム

株式会社トプコンメディカルジャパン

TOPCON MEDICAL JAPAN

約70年にわたり、眼科領域で使用する検査・測定、診断及び治療機器類の提供で、多くの人の「眼の健康」に貢献してきたトプコン。この積み重ねを踏まえ、眼科に特化した電子カルテシステムを提供している。大阪府で開業し、同製品を導入した「さくらもと眼科」で話しを伺った。



さくらもと眼科 院長
櫻本 宏之氏

2007年／近畿大学医学部 卒業、藤井会石切生喜病院臨床研修医
2009年／近畿大学医学部眼科学教室 入局、同附属病院眼科助手
2010年／近畿大学大学院医学研究科 入学
2014年／生長会府中病院眼科医長、近畿大学医学部附属病院眼科 非常勤講師
2016年／済生会富田林病院 眼科、近畿大学医学部堺病院非常勤医師
2017年／さくらもと眼科 開院
■医学博士、日本眼科学会認定眼科専門医

お世話になっている地域に対して高度な医療で恩返しをしたい

「大学病院と同等のレベルの高い医療を、より身近により安全に患者さんに提供したい」。そんな想いから、大阪府河内長野市に眼科クリニックを開院した櫻本氏。大学病院や市中病院などで勤務医として働くうちに、地域医療に貢献したい、自身の目指す医療を実現したいという気持ちが高まり、開業を決心したという。

「大きな病院は医療レベルは高いのですが、診察だけで1日がかりになり患者さんは疲れてしまいます。その上、また後日検査結果などを聞きに行かねばなりません。もっとスピーディに、高度で精度の高い医療を地域で受けられるようにすべきだ、と思ったのです。学生時代から住み続け、お世話になっている地域に、何らかの恩返しがしたいという気持ちもありました」

2017年2月にオープンしたクリニックは手術室と3室のリカバリールームを備え、最新の検査・手術機器を配備。一般的な眼科疾患の診察から、白内障手術・網膜硝子体手術・網膜光凝固術などの日帰り手術も行う。そして、開業時に櫻本氏が導入したのが、トプコンの眼科専用電子カルテシステムIMAGEnetだ。

眼科医にとって必要なのは画像処理能力の高い電子カルテ

トプコンの眼科専用電子カルテは、これまで在籍していた大学病院の眼科でも導入されており、櫻本氏にとっては使い慣れた存在だった。派遣先の病院で他の電子カルテに触れる機会もあったが、使い勝手が良かったことと、トプコンの検査機器との互換性の良さから同社製品を選んだという。

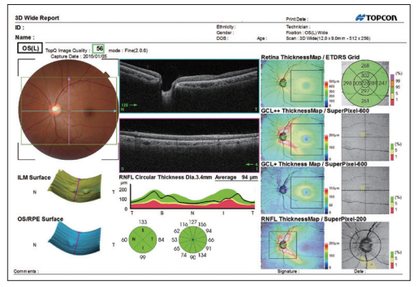
「一般的なクリニック向けの電子カルテは、眼科医にとっては使いにくいのです。トプコンの電子カルテは眼科に特化し〝かゆいところに手が届く設計〟となっています」

例えば内科の医師ならばカルテに書き込んだ文章が重要になるが、眼科では文章よりも1枚の眼底写真が全てを物語る。画像をいかに取り込み、いかにわかりやすく表示できるかが重要なのだ。

「トプコンの電子カルテは、まるでパソコンソフトのパワーポイントやワードを扱うような感覚で、画像をドラッグして貼付けたりできるのが優れた点の1つです」

スタッフが撮影した眼底写真や検査結果はすぐに送信され、全て電子カルテ上に集約され、紙カルテのようにその都度貼付ける必要はない。文字で残したい情報は「医師サマリー」の欄に記入しておけば、画像や検査結果・手術歴や薬の処方などと同時に見ることができる。視力検査を行いながら聞き取った内容は、スタッフが「問診」欄に書き込み、すぐに医師が確認できる。

これらの性格の異なる複数の情報は1つの画面上に表示され、患者が診察室に入る前に医師が全てを把握することが可能だ。文字情報を隠し、画像だけをディスプレイに表示し自由に拡大縮小して患者に見せながら病状を説明することもできる。



電子カルテでOCTの解析結果レポートも簡単表示。

「患者さんを前にして〝今日はどうしましたか？〟と聞くのではなく、〝今日は右目に痛みがあるのですね〟と会話を始められます。患者さんの負担を減らし、スピーディな診察ができるのです」

また、このシステムは紙カルテと比較してレセプト時に要する労力が大きく異なる。

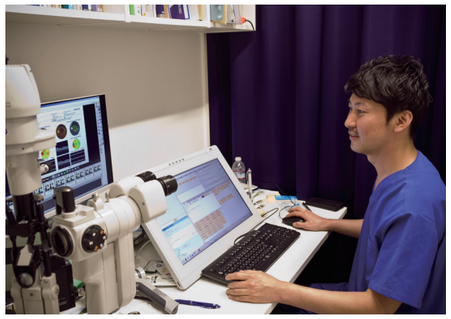
「カルテを閉じる時に〝検査をしているのに病名がない〟というようにレセプトに必要な情報が足りなければ、アラームが表示されます。全国で使用されている日医標準レセプトシステムORCAともうまく連携し、入力漏れを防いでくれます。診療時間内に全てのレセプトの情報が入力ができるため、手間が軽減されます。開院する前には、〝レセプトの時期は非常に辛いよ〟と聞いていましたが、優秀な電子カルテに助けられています」

患者を笑顔にする医療をトプコンの電子カルテがお手伝い

電子カルテは医師だけではなくスタッフも扱えなければ意味がない。櫻本氏は開院前に1ヶ月かけてスタッフ研修を行った。その際にはトプコンの担当者が講師となり、電子カルテ講習会を数回開いたため、スタッフも問題なく使用できたという。システムは数ヶ月に1回という頻度でアップデートされ、全国の医師の声を反映した改良があり、年月と共に使い勝手が向上する。

「電子カルテの一番の怖さは、サーバーが止まると診療ができなくなること。電子カルテが動かなければ最悪の場合休診しなければなりません。フットワークが良く信頼できる会社とお付き合いしたいですね」と櫻本氏。トプコンはもし何かあれば、まずは遠隔操作でサーバーを再起動でき、それでも解決しない場合は、担当者が迅速に現地に赴き対応する。導入前後に加え、何かあった時のサポートも安心できる。

「私が一番大切にしているのは、患者さんが〝この病院は自分のことをわかってくれている〟〝この病院へ来て良かった〟と、笑顔になれる温かみのあるクリニックにすること。当初は電子化すると、温かみが失われるのではないか心配でしたが、そんなことはありませんでした。電子化で労力や費やす時間が減れば、その分を患者さんに向けることができる。電子カルテには医療の幅を広げる可能性があります。もし眼科の医師で導入に迷っているのならば、私はトプコンの電子カルテをお勧めします」と櫻本氏は語る。



トプコンの機器と電子カルテが並ぶ櫻本氏のデスク。両者のスムーズな連携で診察が快適になる。

株式会社
トプコンメディカルジャパン
[東京本社]〒174-8580　東京都板橋区蓮沼町75-1
http://www.topcon.co.jp/eyecare/
E-mail ■ t.kato@topcon.co.jp
TEL ■ 03-5915-1803　担当／営業本部ICT推進営業部 部長　加藤武司